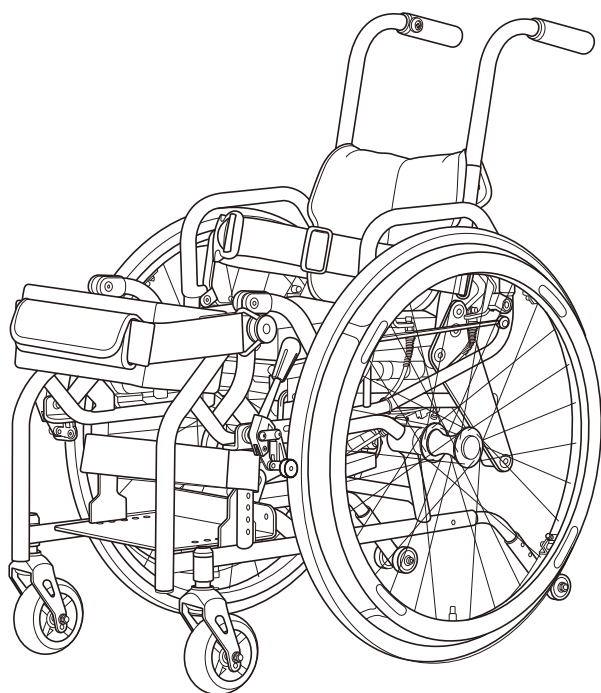


NOVA_RiseActive for Kids

取扱説明書



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

使用者の身体の状態・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。

目次

はじめにご確認ください	2
使用目的・特徴	2
安全上のご注意	2
座面の昇降機構について	6
各部のなまえ	7
使いかた	8
ブレーキのかけかた	8
駆動輪の取り外し・取り付け	9
転倒防止装置の取り外し・取り付け	10
座面の昇降のしかた	10
各部の調節のしかた	14
フットサポートの位置調節	14
バックサポートの高さ調節	15
バックサポートの張り具合調節	15
使用上のご注意	16
保守・点検	16
お手入れ・保管について	16
航空機への搭載について	17
走行上のご注意	17
車いすの持ち上げかた	17
困った時には	18
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。
製品向上のため、本書に記載している仕様の全部、または一部を予告なく変更することがあります。

はじめにご確認ください

本製品ご購入後にはじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

- 車いす本体 1台
- ニーベルト（凸型パッド付）1ヶ
- 取扱説明書（本書）
- 保証書

使用目的・特徴

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。これに搭乗して移動と、休息を目的としています。

使用者がハンドリムを操作して駆動する自走用車いすです。

日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

座面の昇降機能を装備しており、座位から立位まで、用途に合わせて使用者の姿勢を変えることができます。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】



危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】



警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠ 危険



本製品を使用するにあたって、必ず以下を守ってください。

- 必ず保護者(介助者)とともに、販売店やリハビリセラピストの指導のもと、使用者が乗り降りおよび座面昇降の操作方法を習得して、本製品の特徴をよく理解して使用すること。
- 乗降時、車いすの移動時および座面昇降時には、常に保護者(介助者)の補助を伴うか、保護者(介助者)の目の届くところで使用者が操作すること。
- 安全と認められるまでは、使用者ひとりで車いすの移動および座面昇降の操作をさせないこと。



乗り降りは必ず座面を最下位まで降ろした状態で行ってください。座面が傾斜していると転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。



スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



座面の中位・立位時に、身体を必要以上に前方へ乗り出さないようにしてください。車いすが前方へ転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。



駆動輪が抜けないように確実に固定された状態で使用してください。駆動輪の差し込みが不十分な場合、車輪のロック機構が働かず、走行中に外れて事故につながる危険性があります。

車いすをお使いになる際は、駆動輪の中央を手で引っ張っても抜けないか確認してから使用してください。



座面の昇降は、両輪の駐車用ブレーキをかけて、ニーベルト(凸型パッド付)／胸ベルトを装着して、水平かつ平坦な場所で、車いすが安定していることを確認してから操作してください。

車いすが予期しない方向へ動き出したり、座面昇降時に車いすから転落して、事故やけがにつながる恐れがあります。



乗り降りのときや空車時に、昇降レバー(橙)を操作しないでください。空車時にレバーを操作すると、座面が勢いよく跳ね上がり、事故やけがにつながる恐れがあります。



下り坂ではハンドリムを使ってスピードを落とし、ゆっくり走行してください。



自力で走行不可能な坂道では、介助者を伴ってください。



乗車したまま、階段を下りたりしないでください。



エスカレーター(車いす対応エスカレーターを除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)でのご使用は絶対に行わないでください。

転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。



車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。

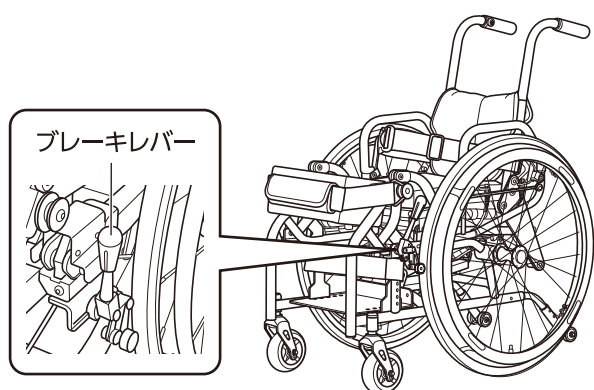
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

警告

❌ 自動車の座席として使用しないでください。
本製品は、車いすに座ったまま自動車等に
乗車することを前提に設計されたものでは
ありません。
車いす移動車の座席として使用した場合、
車載時の負荷により、車いすが破損する恐れ
があります。

❌ 座面上昇時に、車いす移動の操作を行わ
ないでください。

❌ 駐車用ブレーキレバーに体重をかけないで
ください。
レバーが破損・変形して、転倒する恐れがあり
ます。



❌ プッシュアップバーに、横方向へ過度な体重
をかけないでください。また、プッシュアップ
バーをアームサポートとして使用しないで
ください。
プッシュアップバーが破損・変形して、転倒す
る恐れがあります。

❗ 前かがみの状態など、車いすの前方向へのみ
体重をかけるような状況は、座面後方が浮き
上がり前方に転倒する恐れがあります。

❌ 手押しハンドル、本体フレームおよびバック
サポートのポケットに重いものを吊り下げ
たり、入れたりしないでください。
過度の荷物はバランスを崩して、転倒する恐
れがあります。

❗ 乗り降りの際および停止時、座面の昇降時には、
必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。
ブレーキがかかっていないと車いすが動き
だして、衝突や使用者の転倒事故につながる
恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止
まる位置まで確実に操作してください。

❗ タイヤの空気圧の低下、摩耗に注意してくだ
さい。
タイヤの空気圧が低下したり摩耗すると、駐車
用ブレーキが効かなくなる場合があります。
空気の補充をしてもブレーキの効き具合が悪
いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

❌ プッシュアップバーを持って車いすを持ち上
げないでください。
プッシュアップバーのロックが外れて、けがを
する恐れがあります。

❌ 走行しながらプッシュアップバーの跳ね上げ
や、座面の昇降の操作等をしないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 各部を調整する場合は平坦な場所で行って
ください。
車いすが動きだして、事故やけがにつながる
恐れがあります。

❌ 車いすの分解、フレーム構造を変更するよう
な改造は行わないでください。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など
事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでく
ださい。
転倒などの事故につながる恐れがあります。

❗ [ハイポリマータイヤの場合]
クッションフロアやフローリングなど床面の
材質によっては、ハイポリマータイヤとの
相性により車いすを走行させると汚れが付着
したり、床面を傷つける場合があります。
十分注意して使用してください。

⚠ 注意

❌ この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。

❗ プッシュアップバー、フット・レッグサポート、座面の昇降機構の可動部に指や身体をはさまないように注意してください。

❗ 操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

❌ フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。

❌ シンナー・ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。

❌ 暖房器具にタイヤを近づけないでください。
エアータイヤの場合、タイヤの空気が膨張して、大きな音をたててパンクすることがあります。
ハイポリマータイヤの場合、タイヤの表面が溶けたり破損する場合があります。
破損した場合は乗車をやめて必ず修理してください。



❗ フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによってシート生地に毛羽が付着することがあります。衣類用ブラシなどで付着した毛羽を取り除くか、市販の静電気防止スプレーを使用するなどしてください。

❌ シャワーや入浴には使用しないでください。
水分や湿気などにより故障する恐れがあります。

❌ 車輪・キャストを他のサイズや種類に変更しないでください。

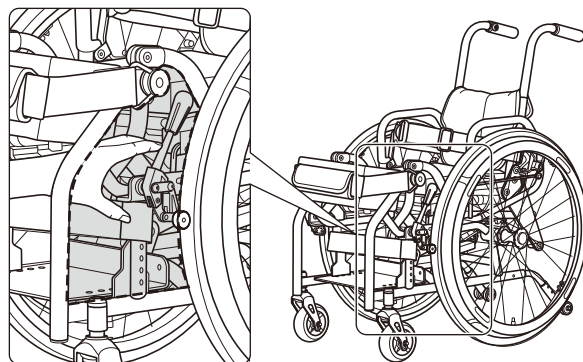
❗ 最大体重(積載物も含む)は75kgです。
体重制限を守って使用してください。

❗ 走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないようにしてください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 使用する前に駆動輪・キャスト・駐車用ブレーキ等のネジを点検して、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
ゆるんだ状態で使用されると、部品のガタツキや脱落などの原因となり事故やけがにつながる恐れがあります。

❌ 走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。

❗ フット・レッグサポートのすき間に手や足を入れないでください。
けがをする恐れがあります。



❗ 段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。
車いすの破損や故障の原因となります。

❗ 車いすを自動車に乗せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。

座面の升降機構について

本製品は、座面の升降機構を装備しています。

車いすの座面を任意の高さに設定して、使用することができます。

本書では、座面高の違いによる姿勢の状態を、それぞれ次の名称で説明します。

座面の升降のしかたについては、該当ページをお読みください。

(P.10「座面の升降のしかた」参照)

〔 座位 (ドライビングポジション) 〕

通常の車いすと同じ状態です。

日常の車いすによる移動や、乗り降りはこの状態で行います。

※本書では、座面を最も下げた状態を「最下位」と表記します。

〔 中位 (アクティブポジション) 〕

座面を持ち上げた状態です。

従来の乗車姿勢では不可能な高所での作業や、視点を高くしたいときなどに使用します。

駐車ブレーキをかけ、ニーベルト (凸型パッド付) / 胸ベルトを装着して、水平かつ平坦な場所で、車いすが安定していることを確認してから操作してください。

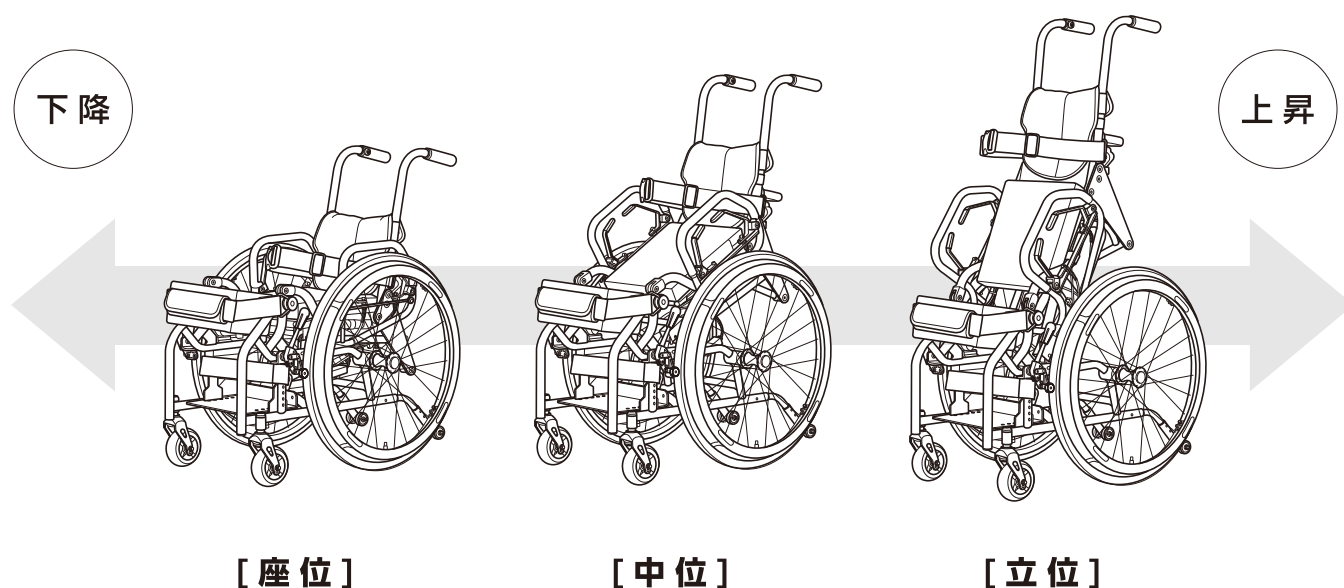
〔 立位 (スタンディングポジション) 〕

使用者の立位を保つことができる状態です。

この状態では、ハンドリムに手が届かなくなり、駆動輪を操作した車いすの移動ができなくなります。

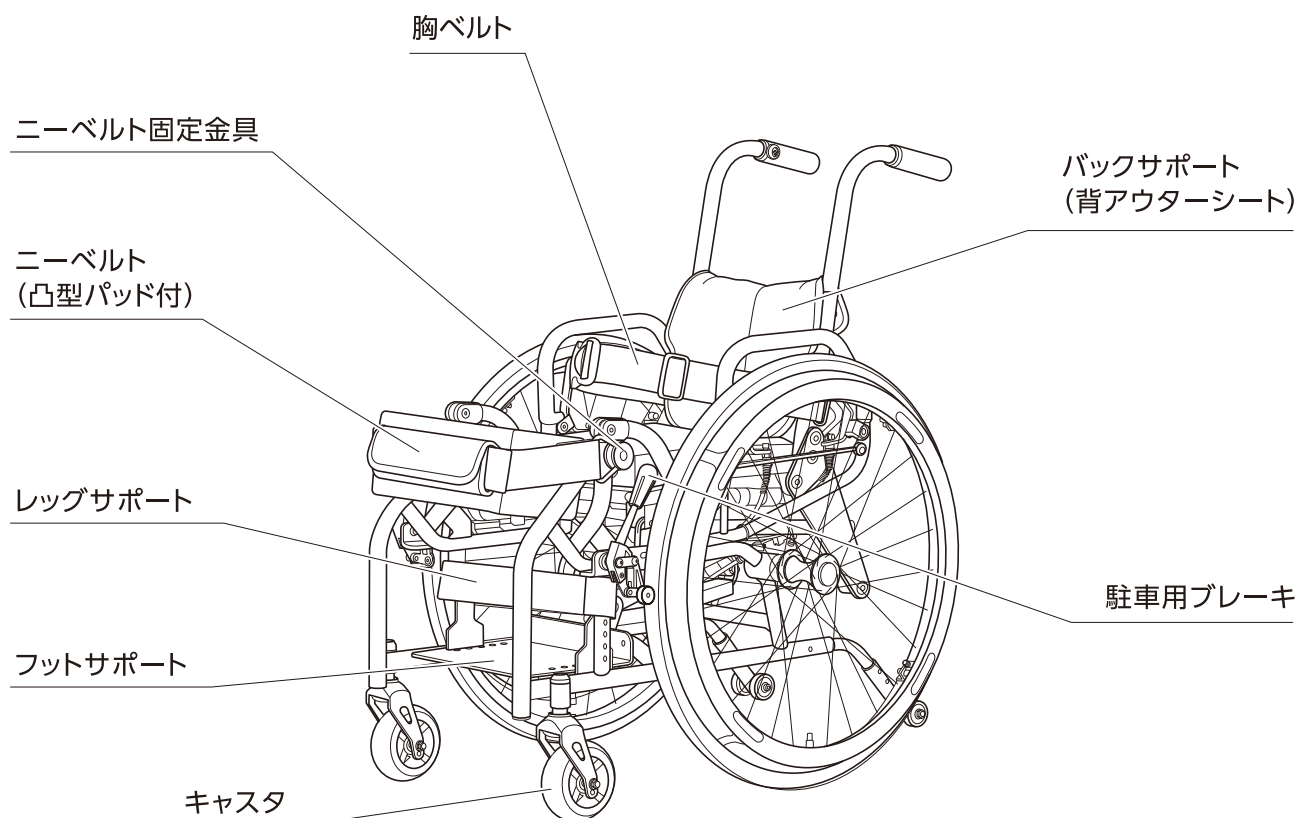
駐車ブレーキをかけ、ニーベルト (凸型パッド付) / 胸ベルトを装着して、水平かつ平坦な場所で、車いすが安定していることを確認してから操作してください。

※本書では、座面を最も起こした状態を「最大立位時」と表記します。

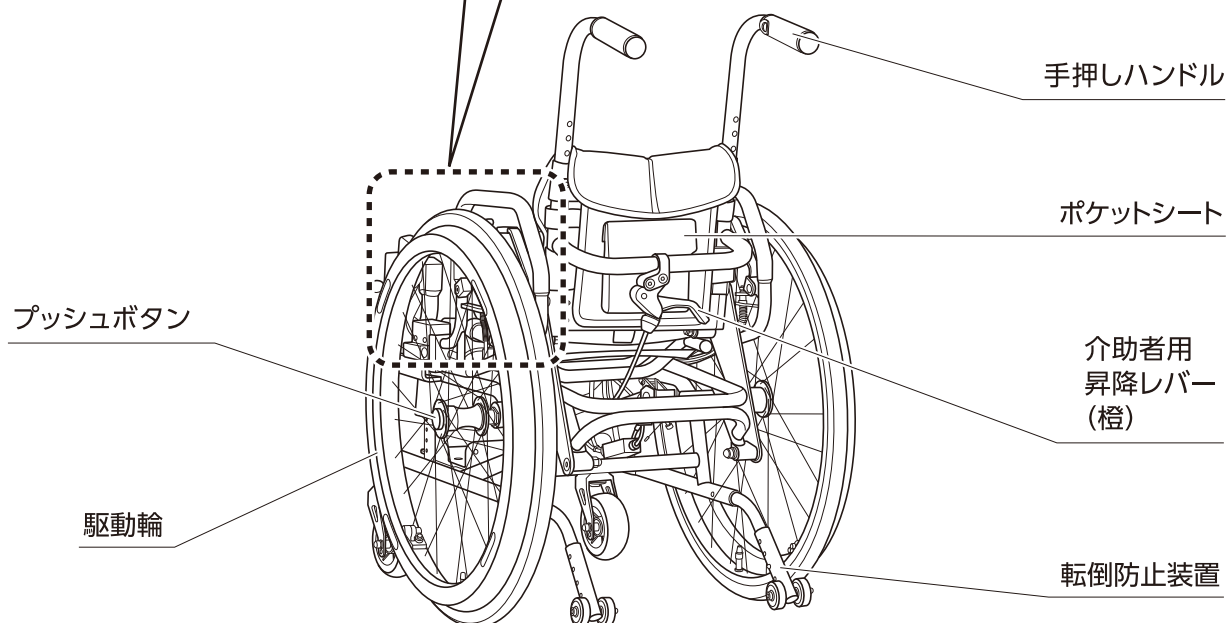
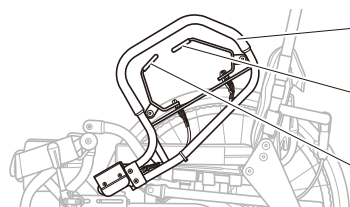


各部のなまえ

※クッションは別売り



<プッシュアップバー部>



使いかた

ブレーキのかけかた

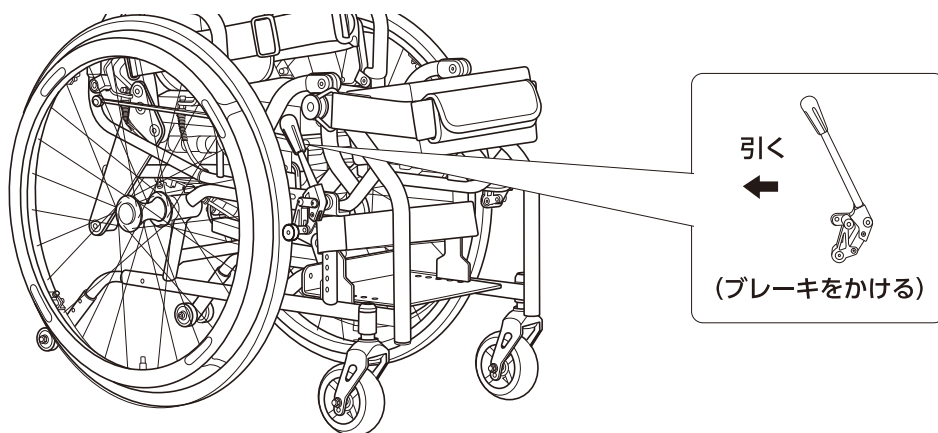
⚠ 警告

- ・ 乗り降りの際、停止時および座面の昇降時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動き出して、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。
- ・ 駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形して、転倒する恐れがあります。
- ・ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・ タイヤの空気圧の低下、摩耗に注意してください。タイヤの空気圧が低下したり摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。空気の補充をしてもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた

使用者もしくは介助者が、左右の駐車用ブレーキレバーを後方に引いてかけます。

駐車用ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



駆動輪の取り外し・取り付け

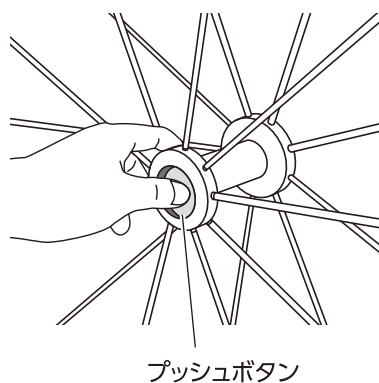
ワンタッチで駆動輪を外せるため、コンパクトに収納、持ち運びができます。

⚠危険

駆動輪が抜けないように確実に固定されていることを確認してから使用してください。駆動輪の差し込みが不十分な場合、車輪のロック機構が働かず、走行中に外れて事故につながる恐れがあります。

● 取り外しかた

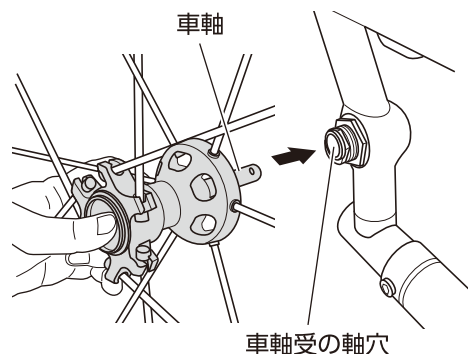
- 1 駐車用ブレーキを解除します。
- 2 車軸中心のプッシュボタンを押しながら、車輪ごと駆動輪を引き抜きます。



- 3 反対側も同様に取り外します。

● 取り付けかた

- 1 駐車用ブレーキを解除します。
- 2 車軸中心のプッシュボタンを押しながら、車輪を車軸受けに差し込みます。



- 3 反対側も同様に取り付けます。

* 取り付け後は、駆動輪の中央を手で引っ張っても抜けないか確認してください。

転倒防止装置の取り付け・取り外し

⚠ 警告

転倒防止装置を取り外した状態で本製品を使用しないでください。

⚠ 注意

操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。

●取り付けかた

転倒防止装置（2本）を、図の向きにしてティッピングレバーに差し込み、ロックボタンが穴から出ていることを確認してください。

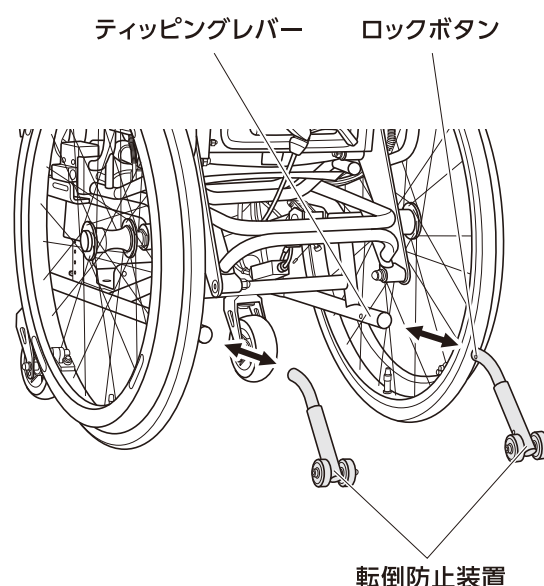
*転倒防止装置が一時的にじゃまになるときは、取り外すことができます。通常は、転倒防止装置を図のようにセットした状態で使用してください。

●取り外しかた

ロックボタンを押した状態で、転倒防止装置を引き抜いてください。

●転倒防止装置の向きの変更

ロックボタンを押した状態で、転倒防止装置を上へ180°回転させてください。ロックボタンが穴から出ていることを確認してください。

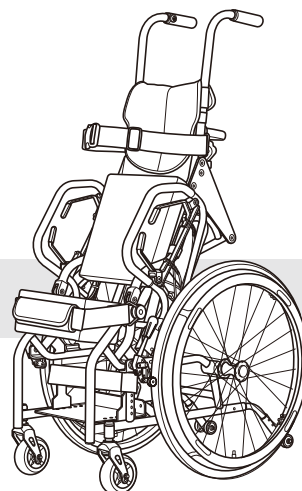
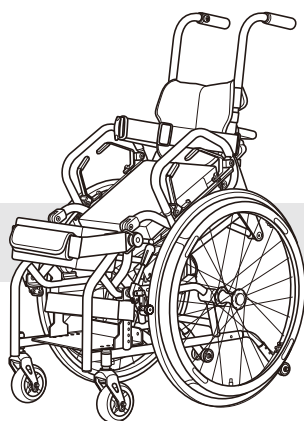
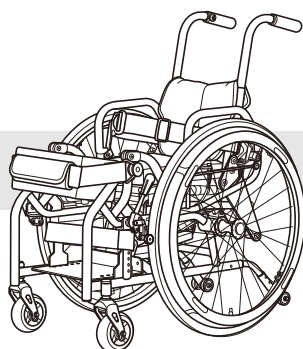


座面の昇降のしかた

車いすの座面を任意の高さに昇降することができます。
(P.6「座面の昇降機構について」参照)

下降

上昇



〔座位〕

〔中位〕

〔立位〕

⚠ 危険	- 座面の昇降は、両輪の駐車用ブレーキをかけて、ニーパッド／胸ベルトを装着して、水平かつ平坦な場所で、車いすが安定していることを確認してから操作してください。 車いすが予期しない方向へ動き出したり、座面昇降時に使用者が車いすから転落して、事故やけがにつながる恐れがあります。 - 乗り降りは必ず座面を最下位まで降ろした状態で行ってください。座面が傾斜していると使用者が車いすから転落して、事故やけがにつながる恐れがあります。
-------------	---

⚠ 警告	座面の昇降は、車いすの移動をさせながら行わないでください。
-------------	--------------------------------------

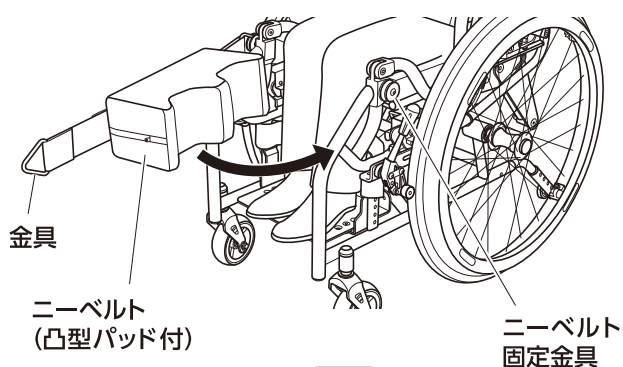
● 操作の前に

⚠ 警告	- はじめてお使いになる際は、ニーベルト（凸型パッド付）と胸ベルトを使用者の適切な長さに調節してください。リハビリセラピストや販売店の指導のもと調節することをお奨めします。 - 必ず保護者（介助者）の方が、ニーベルト（凸型パッド付）と胸ベルトによって使用者の身体が確実に固定されていることを確認してください。
-------------	---

1 車いすに乗車したら、両輪の駐車用ブレーキをかけます。

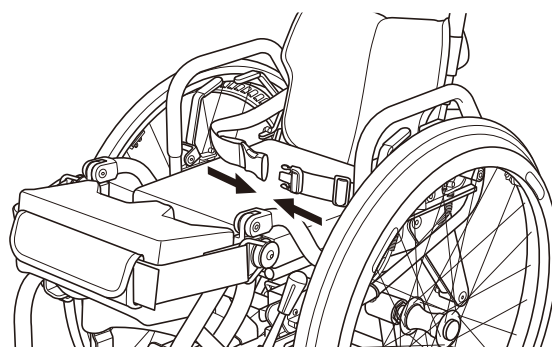
2 ニーベルト（凸型パッド付）を装着します。
ベルト両端にある金具を、車いすの両側にあるニーベルト固定金具に引っ掛けて固定します。
ベルトがきつい／ゆるい場合は、ベルトの面ファスナーを貼り直して、長さを調節します。

* 目安は使用者のひざ下にパッドが当たる位置です（状態に合わせて調節してください）。



3 胸ベルトを装着します。
バックル部分を差し込んで固定します。

* 目安は握りこぶしがひとつ入る程度までゆるめますが、使用者の状態に合わせて最適な長さに調節してください。

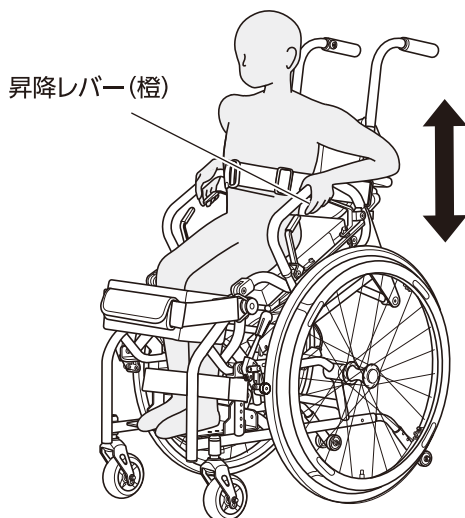


4 身体が確実に固定されていることを確認してください。

● 座面上昇のしかた（使用者が操作する場合）

- 1** 昇降レバー（橙）を握ってプッシュアップすると、座面が上昇します。

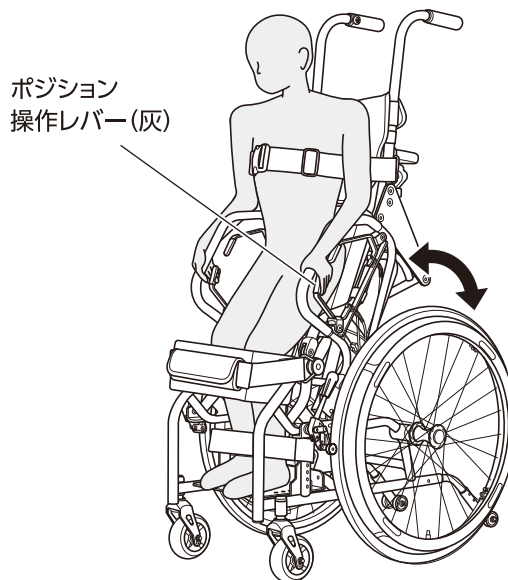
* 昇降レバー（橙）は左右についていますが、どちらか片方だけ握っても昇降の操作が可能です。
* 握った直後は座面が勢いよく上がるため、常に体全体で座面を支えながら、ゆっくりと昇降させてください。



- 2** 座面の位置が決まったら、昇降レバー（橙）を放します。

- 3** さらに座面の高さを上げたいときは、ポジション操作レバー（灰）を握りながら、プッシュアップバーを前方に引き上げます。

* プッシュアップバーは座面の高さに応じて、3段階に切り替えることができます。



- 4** この状態でもう一度昇降レバー（橙）を握ってプッシュアップすると、さらに座面が上昇します。

- 5** 座面の位置が決まったら、昇降レバー（橙）を放します。

● 座面下降のしかた（使用者が操作する場合）

- 1** ポジション操作レバー（灰）を握って、プッシュアップバーを操作しやすい位置に合わせます。

- 2** 昇降レバー（橙）を握りながら、プッシュアップバーをつかんで、座面を下降させます。

* 必要に応じてプッシュアップバーの位置を変えながら操作してください。

- 3** 座面の位置が決まったら、昇降レバー（橙）を放します。

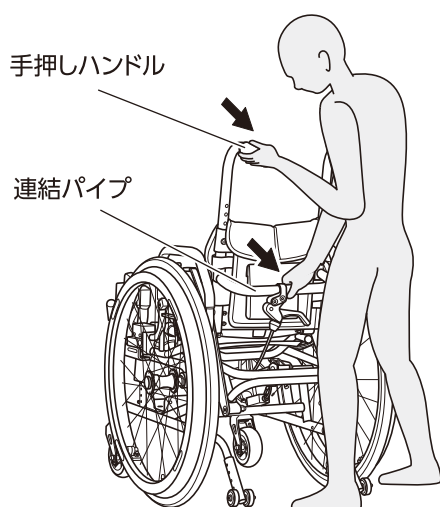
● 座面上昇のしかた（介助者が操作する場合）

⚠ 注意

介助用昇降レバー（橙）を握った直後は座面が勢いよく上がるため、はじめてお使いになる際は使用者が乗車していない状態で、昇降の操作を習得することをお奨めします。

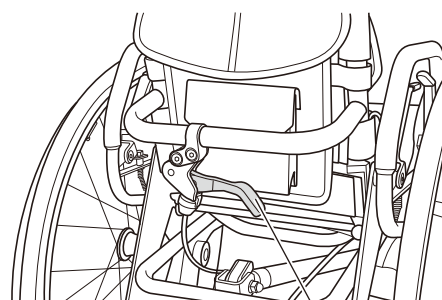
1 使用者が着座した状態で、両輪の駐車ブレーキがかかっていること。ニーパッド・胸ベルトを装着して、確実に固定されていることを確認します。

2 手押しハンドルと連結パイプを持って、フレームを支えます。



3 フレームを支えながら、背面の介助用昇降レバー（橙）を握ると、座面が上昇します。

* 握った直後は座面が勢いよく上がるため、常に手押しハンドルや連結パイプを持ってフレームを支えながら、ゆっくりと昇降させてください。

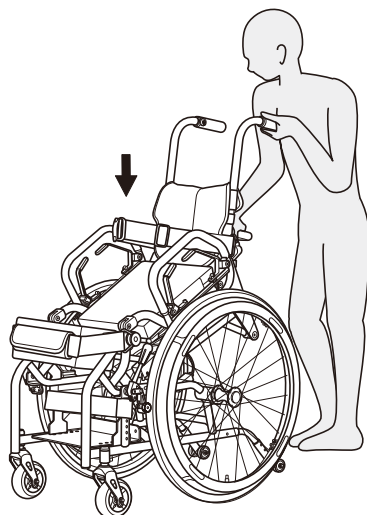


介助者用昇降レバー（橙）

4 座面の位置が決まったら、介助用昇降レバー（橙）を放します。

● 座面下降のしかた（介助者が操作する場合）

1 手押しハンドルと連結パイプを持ってフレームを支えながら、背面の介助用昇降レバー（橙）を握って、車いす全体を下に押さえるように力を入れて、座面を下降させます。



2 座面の位置が決まったら、介助用昇降レバー（橙）を放します。

各部の調節のしかた

フットサポートの位置調節

使用者に合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。

● フットサポートの高さ調節

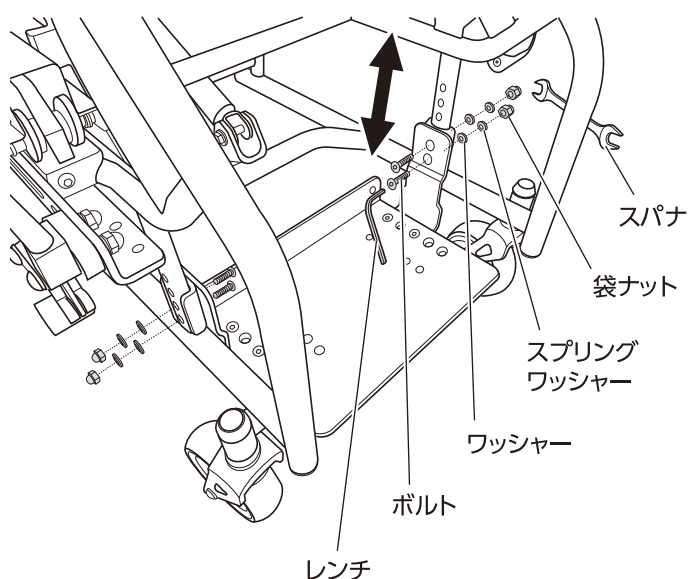
フットサポートは上下に5段階の調節が可能です。

使用する工具：六角レンチ(4mm)、スパナ(10mm)

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 フットサポートパイプとフットサポートをつなぐボルトとナットを左右各2ヶ所すべて取り外します。
- 3 フットサポートを上下に動かして、適切な高さに調節します。
 - * ボルトを通す穴位置を、フレームの穴から選択してください。
 - * フットサポートの高さが左右同じになっていることを確認してください。
- 4 高さを決めたら、フレームの内側からボルトを差し込み、外側からワッシャー、スプリングワッシャー、袋ナットの順に入れて固定します。

締め付けトルク：6.0Nm

* 調節後、フットサポートが確実に固定されていることを確認してください。



● フットサポートの前後調節

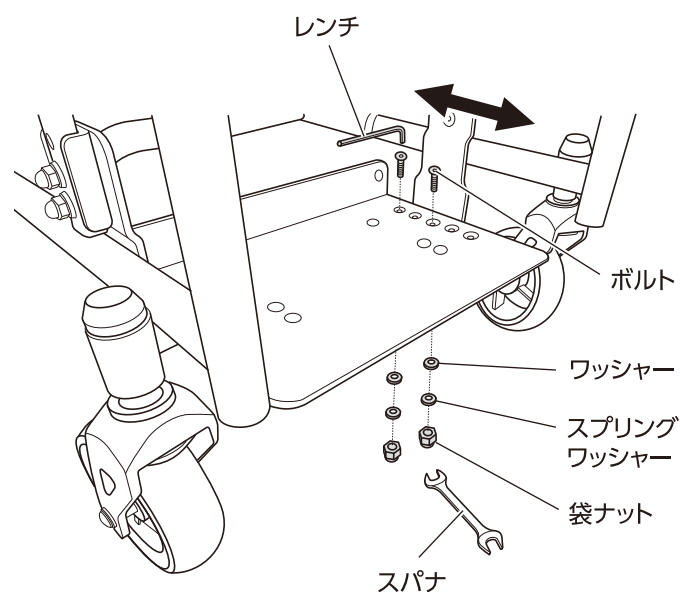
フットサポートは前後に3段階の調節が可能です。

使用する工具：六角レンチ(4mm)、スパナ(10mm)

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 フットサポートを固定しているボルトとナットを4ヶ所すべて取り外します。
- 3 フットサポートを前後に動かして、適切な位置に調節します。
- 4 前後の位置決めたら、フットサポートの上側からボルトを差し込み、下側からワッシャー、スプリングワッシャー、袋ナットの順に入れて固定します。

締め付けトルク：6.0Nm

* 調節後、フットサポートが確実に固定されていることを確認してください。



バックサポートの高さ調節

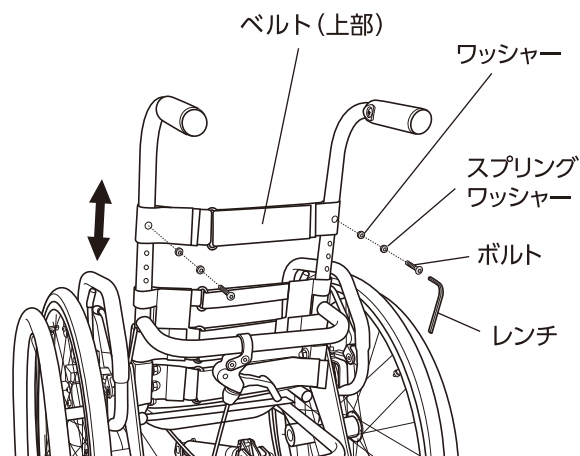
使用者に合わせて、バックサポートを適切な高さに調節してください。

バックサポートは上下に6段階の調節が可能です。

使用する工具：六角レンチ(4mm)

△注意 バックサポートの高さ調節は、使用者が乗車していない状態で行ってください。

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 ポケットシートとアウターシートを取り外します。
- 3 ベルト(上部)を固定している左右のボルトをすべて取り外します。
- 4 ベルトを上下に動かして、適切な高さに調節します。
- 5 高さを決めたら、背面からワッシャー、スプリングワッシャー、ボルトの順に入れて固定します。
締め付けトルク：5.0～6.0Nm
* ベルトが確実に固定されていることを確認してください。
- 6 ポケットシートとアウターシートをもとに戻します。



バックサポートの張り具合調節

バックサポートにはテンション式背シートを装備しています。テンション式背シートの張り具合を適切に調節することにより、バックサポートが使用者の体にフィットして、疲れにくく安定した姿勢を保つことができます。

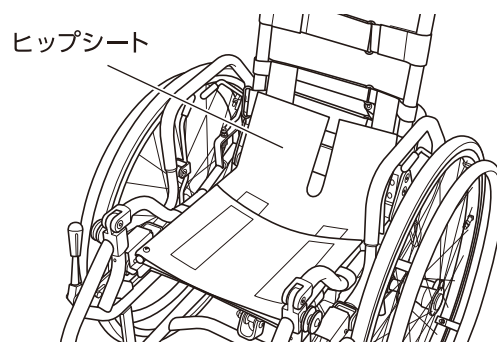
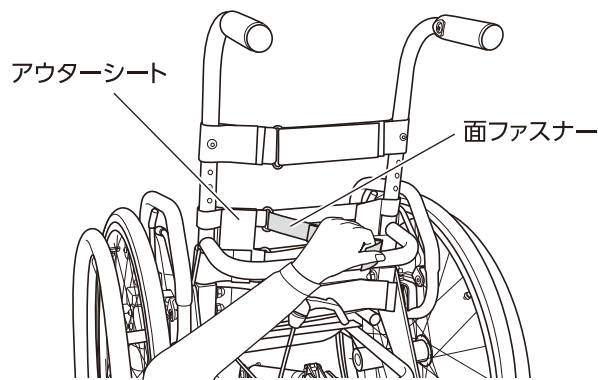
* 調節は使用者を乗せた状態で、使用者の状態を確認しながら行ってください。

△警告

張り具合の調節は必ず「座位」の状態で行ってください。
「中位」「立位」の状態での調節は効果が得られないだけでなく、使用者の体幹が安定せず、使用者が前方に転倒する恐れがあります。

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 ポケットシートを取り外します。
- 3 下から上の順に、ベルトの面ファスナーを貼り直してベルトの張り具合を調節します。
ヒップシートの張り具合も同様に調節します。
- 4 ポケットシートをもとに戻します。

- * アンカーサポート機能のついたクッションと合わせて使用すると、より姿勢保持の効果が得られます。
- * 過度の調節（ゆるめすぎ、締めすぎ）はかえって姿勢を崩すことになりますので、十分注意して行ってください。
- * リハビリセラピストまたは販売員のアドバイスを受けられることをお奨めします。



使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備して、常に安全な状態で使用してください。

*修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

● タイヤの空気圧の確認

- ・タイヤの空気を定期的(2週間ごと)に点検して、不足している際は空気を補充してください。(適正空気圧はタイヤ側面に明記されています。)
- ・長時間使用しなくても空気は抜けていきます。空気が抜けた状態で使用すると、タイヤ、チューブを傷め、破損する恐れがあります。
- ・ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調節してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、お買い上げの販売店へお問い合わせください。
- ・パンクしたときは、お買い上げの販売店へお問い合わせください。また、パンクしたまま使用しないでください。

● 駐車用ブレーキの作動確認

- ・駐車用ブレーキレバーを操作して、確実にブレーキがかかることを確認してください。

● 各調節部分が固定されていることの確認

各調節部分をチェックして、確実に固定されていることを確認してください。

● 消耗品、交換部品の確認

⚠注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。
-----	---

それぞれ部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。

新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店へ連絡してください。

消耗品・交換部品

品 名	交 換 時 期
駆動輪	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスト	表面の摩耗が著しいとき。 しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート ／ベルト	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆びが発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● 樹脂部品のお手入れ

- ・樹脂部品の汚れは、中性洗剤で落としてください。

⚠注意	・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。 ・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。
-----	---

● タイヤのお手入れ

- ・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● シート・ベルトのお手入れ

- ・シート・ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等が付いた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- ・フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによってシート生地に毛羽が付着することがあります。衣類用ブラシなどで付着した毛羽を取り除くか、市販の静電気防止スプレーを使用するなどしてください。

● 保管・収納について

- ・錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温が上がる場所、直射日光の当たる場所には保管しないでください。

航空機への搭載について

本製品を使用して航空機へ搭載する場合は、本製品にガススプリング(ガスダンパー)が使用されていることを必ず事前に搭乗予定の航空会社へ連絡して、航空会社の指示に従ってください。

走行上のご注意

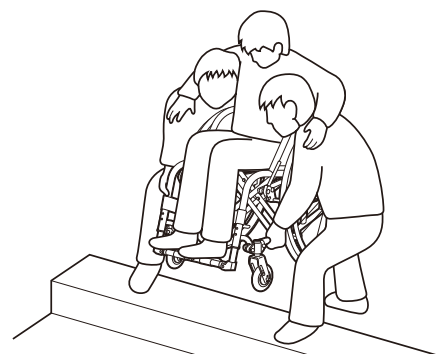
- ・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないように十分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャストのはさみ込みには十分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認したうえで、停車せず通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には十分注意してください。
- ・クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車椅子を走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。十分注意してご利用ください。
- ・エスカレーター(車いす対応エスカレーターは除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)での使用は、絶対に行わないでください。
- ・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。

車いすの持ち上げかた



警告

車いすを持ち上げる場合は必ずフレームを持ってください。駆動輪、パイプアームサポート、プッシュアップバーを持って持ち上げると、車いすの破損や落下、転倒による事故につながる恐れがあります。



車いすに乗ったまま持ち上げる場合

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかりと持ち上げるようにしてください。

＊使用者の両腕をそれぞれの介助者の方にかけて、持ち上げる際の介助者の負担が軽くなります。

困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に下記項目を確認してください。

症 状	確 認 点	対 処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。
	車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	傾斜面の低い側にあたる駆動輪をより強く回してください。
	駆動輪の空気圧の不足、また左右の空気圧に差がありませんか。	左右の駆動輪を適正な空気圧に調節してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	キャストの回転に左右差がありませんか。 キャスト軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	キャスト、駆動輪の計4輪がきちんと設置していますか。	
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪の空気圧は適正ですか。	駆動輪を適正な空気圧に調節してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	駆動輪のタイヤは摩耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押さえが主輪にきちんと当たっていますか。 駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
駆動輪に空気が入らない。 すぐに抜ける。	適正な空気圧で補充していますか。	駆動輪を適正な空気圧に調節してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	タイヤ、チューブのパンク、バルブが消耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。

症 状	確 認 点	対 処
異音がする。	本体や車輪とオプション品、アクセサリなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するアクセサリなどは、駆動輪など回転する箇所と干渉しないようにしてください。
	可動部分の錆び・消耗・汚れ・油汚れなどによっておこる摩擦音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ボルト類のゆるみ等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
座面の昇降ができない。 座面の昇降の動きが悪い。	昇降レバーのワイヤーチューブが折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取り回しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	昇降レバーのワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。

アフターサービス

- ・ 万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況を連絡してください。
- ・ 保証期間内の修理につきましては、保証書の提示が必要です。

保 証

- ・ 保証内容につきましては、同封の保証書をお読みください。
- ・ 保証期間終了後の修理につきましては、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。

本製品の廃棄につきましては、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元



株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目 38 番 10 号